

かわ

2026.7.1
vol.270 Contents

ふくおか水もり自慢/報告 P1~P2
グッドライフアワード環境大臣賞受賞..... P3~P5
楽しく川で遊ぼう P6上段
第1回災害復旧実務講習会 P6下段
河川愛護月間・河川愛護活動 P7~P8
ふくおかの身近な川といきものを知ろう!... P9~10
河川協会からのお知らせ



ふくおか水もり自慢!

第22回 ふくおか水もり自慢!inくるめを開催しました!

令和8年3月15日(日)に久留米市にある「久留米大学 御井キャンパス」において、「第22回 ふくおか水もり自慢!inくるめ」を開催しました。

「ふくおか水もり自慢!」は、福岡県内で「水」・「もり(森)」(山林、川、ため池、水田、水路、海、干潟など)に関わる活動をしている団体(学校、市民団体、NPO、企業、国、地方自治体)が一堂に会し交流することで、団体間の交流や行政と市民団体のパートナーシップの促進を目指し、福岡県がNPO法人等と協働で毎年開催しています。

今年の「ふくおか水もり自慢!」のテーマは、「水もり自慢が紡ぐ未来 多様な主体で挑む気候変動への適用」でした。近年、世界各地で記録的な豪雨や猛暑、干ばつなど、これまでの常識では考えられなかった気象現象が起きています。この大きな課題に対して会場に集まった皆さまがお互いの活動について知ること、今できること・これからできることを一緒に考えるきっかけになるような大会を目指しました。

午前中は、金沢大学講師の坂本貴啓先生と九州産業大学教授の山下三平先生による基調講演、そして、「福岡災害レジリエンス研究室」さん、「Bottled Local」さん、「朝倉県土整備事務所」から気候変動への適応に関する事例紹介をしていただきました。

昼食時には昼食交流会と古賀河川文庫の見学を行いました。

午後からの活動発表では39団体の発表があり、市民団体や行政、大学などが、寸劇やパワーポイント等を用いた活動発表を行いました。

来年度は北九州ブロックで開催する予定です。多くの方々のご参加をお待ちしております!



福岡県河川愛護事業キャラクター
よみガエルくん

第22回ふくおか水もり自慢!inくるめ 当日のプログラム

10:00 開会式

10:10 基調講演①

「全国各地の地域版 川のワークショップの特色とふくおか水もり自慢!の意義
～これからの官民連携の流域管理に向けて～」 金沢大学講師 坂本 貴啓

10:40 基調講演②

「Smart School=新宮北小学校の雨水活用の計画と実績」

九州産業大学教授 山下 三平

11:10 気候変動への適応に関する事例紹介

① NPO法人 福岡災害レジリエンス研究室 平川 文

② Bottle Local 高橋 米彦

③ 朝倉県土整備事務所 河川砂防課

11:40 休憩・昼食交流会

13:00 河川絵画コンクール表彰式

13:20 活動報告 39団体

16:50 閉会式



【活動報告】.....

各団体は持ち時間3分の中でそれぞれの活動の思いを披露します。劇やスライドなど様々な手法を用いて各団体の活動を報告し交流を深めました。

【発表団体(敬称略、順不同)】(39団体).....

セッション①(10団体)

- 直方川づくり交流会 ●猪口嘉南斗 ●ゆるっぽ ●石丸山公園クラブ
- 特定非営利活動法人 アザメの会 ●筑後川まると博物館運営委員会(子ども学芸員養成講座)
- プロジェクトWET研究会・筑後川まると博物館運営委員会
- 久留米市市民公益活動団体 パルキッズくるめ ●豊の国海幸山幸ネット
- 認定こども園 江上保育園

セッション②(10団体)

- 古賀市立舞の里小学校 ●あめにわがかり ●くまもと雨庭パートナーシップ
- JIROの空プロジェクト ●熊本県立大学 ●日本ダム協会認定 ダムマイスター 三ちゃん
- 筑後川まると博物館運営委員会(昭和28年水害伝承) ●筑後を守るドローン隊
- ふくおかの川と水の会 ●株式会社福山コンサルタント

セッション③(10団体)

- 土居 自然学校 ●SOW-Dive!(ソウダイブ!) ●九州大学 流域システム工学研究室
- 一般社団法人筑後川プロジェクト協会 ●一般社団法人ふくおかFUN
- Good News ●良山中学校 ●ASCJ系島の海を守る会
- NPO法人遠賀川流域住民の会 ●一般社団法人福岡県損保代理業協会 久留米支部

セッション④(9団体)

- 遠賀川流域生態系ネットワーク形成推進協議会作業部会 ●遠賀川親めだかの会
- 久留米市 環境部 環境保全課 ●福岡県県土整備部河川整備課
- 龍王・山・里・川の会 ●筑後川流域連携倶楽部 ●福岡県久留米県土整備事務所
- 田川ふるさと川づくり交流会 ●金沢大学 地域創造学類 河川・流域まちづくり研究室

【当日の様子】.....



基調講演①



基調講演②



活動報告①



活動報告②



活動報告③



集合写真

第13回 グッドライフアワード 環境大臣賞最優秀賞を受賞

九州大学大学院工学研究院 准教授 林 博徳

このたび、九州大学流域システム工学研究室の取組「人と地域と自然をつなぐ流域再生の実践―多主体共創で拓く心豊かな未来」が、環境省主催「第13回グッドライフアワード」において、最高位である環境大臣賞最優秀賞を受賞しました。今回の応募は歴代最多の224件と伺っており、その中で本研究室の活動を評価いただいたことを大変光栄に感じています。また、教育機関として同賞の最優秀賞を受賞するのは初めてとのことで、研究室の成果であると同時に、これまで川づくりに関わってくださった地域、行政、企業、学校、NPO、専門家の皆様とともにいただいた賞であると受け止めています。

私たちの活動の出発点には、過去の河川改修が治水を最優先する一方で、川が本来もつ生態系、景観、文化、地域とのつながり等を十分に扱いきれていなかったのではないかという問題意識があります。そして、気候変動に伴う水害の激甚化、生物多様性の減少、農村景観の変化、地域コミュニティの弱体化が同時に進むなかで、川づくりは単なる施設整備ではなく、人と自然、人と地域、人と人の関係性を構築する営みであるべきだと考えています。私たちは「いい川を

つくりたい。その魅力を多くの人と共有したい」という思いを原点に、河川工学、生態学、農学、歴史学、景観デザイン、合意形成などの知見を組み合わせながら、流域再生の実践に取り組んできました。

グッドライフアワードで評価いただいた最大の特徴は、学術研究・教育・社会実装を分けずに連動し包括的な取り組みを行ってきた点です。私たちは徹底したフィールド調査と科学的解析に基づき、河川環境再生の技術、自然再生事業の効果、歴史的河川構造物の治水・環境機能などを明らかにし、その成果を様々なステークホルダーの皆さんとともに実際の改修計画や地域活動に反映してきました。同時に、現場で生じる新たな問いを研究に持ち帰り、得られた知見を再び現場へ返すという循環を大切にしています。九州を中心として国内30を超える河川・地域で、行政、地域住民、子どもたち、技術者、企業、研究者とともに、河川の自然再生、水生生物生息場の保全、歴史的構造物の保全、災害復旧支援、小さな自然再生や雨庭づくりなどに取り組んできました。

代表的な実践の一つが、福岡県福津市の上西郷川です。かつてコンクリート二面

張りであった川を、地域に愛される里川へ再生するため、学術的知見に基づく計画提案、環境設計、住民参加ワークショップの運営、模型を用いた合意形成、竣工後の環境学習、維持管理体制の構築まで、長期にわたり取り組んできました。整備後には魚種数や個体数が大きく増加し、川遊びや魚とり、学校教育、技術者研修の場として多くの人々に利用されるようになりました。川の自然環境が改善されるだけでなく、地域の誇りや学びの場、さらには地域価値の向上にもつながっていることは、私たちにとって大きな励みです。

もう一つの重要な実践が、福岡県朝倉市の野鳥川流域です。ここでは、豪雨災害、耕作放棄、風景の荒廃、歴史的河川構造物の保全といった複合的な地域課題に、流域スケールで向き合っています。地域の皆様とともに、耕作放棄地を湿地や自然林として再生する活動を進めるとともに、石畳堰などの歴史的構造物がもつ治水機能や水生生物の生息場としての機能を科学的に評価し、その価値を河川管理者や地域と共有してきました。これらの成果は、被災した石畳堰の復元や、既存コンクリート堰を石畳堰へ再生する事業にも活かされています。

また、私たちは環境教育を活動の中心に位置づけています。川の魅力は、講義室だけでは伝えきれません。現地に赴き、川に入り、生き物を見つけ、流れを感じ、地域の方から話を聞くことで、子どもたちは川を五感で感じ、川や環境を自分ごととして捉えるようになります。過去15年間で、環境教育やフィールド学習の実施回数は約300回、受益者はのべ約1万5千人にのぼります。さらに、鹿野雄一特任准教授を中心に実物標

本から作成した3Dデジタル生物モデルを800種・2000モデル以上公開するなど、DXを活用した教育資源の整備にも取り組んでいます。現場での五感に基づく学びと、デジタル技術による広い共有を組み合わせることで、川や生き物の魅力をより多くの人へ届けたいと考えています。

今回の受賞は、私たちの活動が「環境保全」だけでなく、「社会」「経済」「教育」「地域文化」を横断する取組として評価されたことに大きな意味があると考えています。川づくりは、河川管理者や専門家だけで完結するものではありません。地域の経験や記憶、行政の制度、企業の技術、子どもたちの発見、研究者の知見が重なり合って、初めて持続的な流域再生につながります。合意形成には時間がかかり、維持管理には手間も必要です。それでも、関わる人が増え、川に愛着をもつ人が増えることで、流域は少しずつ変わっていくと思っています。小さくても質の高い実践を積み重ね、それを共有することが、同じ課題に直面する地域を勇気づけると信じています。

また先日、福岡県庁において服部誠太郎知事を表敬訪問し、今回の受賞とこれまでの流域再生の取組について報告する機会をいただきました。その際、知事からは、私たちの活動が人と動物、そして環境の健やかな関係を一体的に捉える福岡県の「ワンヘルス」の実践そのものであるとして、大変温かいお言葉をいただきました。川をよくすることは、生き物の生息場を守るだけでなく、地域の暮らし、学び、健康、文化を支える基盤を整えることでもあります。この視点は、私たちが目指してきた流域再生の方向性とも深く重なるものです。

福岡県内の河川では、都市化の進展、農地や里山の変化、近年の豪雨災害などを背景に、治水安全度の確保と自然環境の保全、地域のにぎわいづくりを同時に考える必要性がますます高まっています。現場では、河川管理者が制度や安全性を担保し、地域住民が日常の経験や記憶を伝え、学校や子どもたちが新しい発見をもたらし、研究者や技術者がそれらを科学的に整理して選択肢を提示することが求められます。こうした役割が相互に尊重されるとき、川づくりは「誰かが整備するもの」から「みんなで育てるもの」へと変わっていくと思っています。本誌「かわ」の読者の皆様にも、日々の実務や地域活動のなかで同じ課題に向き合っておられる方が多いと思います。今回の受賞が、福岡の川づくりに関わる方々にとって、現場での地道な実践の価値を再確認するきっかけになれば幸いです。

今後は、福岡・九州・日本で培ってきた流域再生の知見をさらに深めるとともに、国際的な発信と連携にも力を入れていきます。私たちの活動は、ナショナルジオグラフィック協会の支援を受けるなど、海外からも関心を寄せられています。世界各地でも、治水、生物多様性、地域文化、土地利用の変化が複雑に絡み合う流域課題が生じています。野鳥川や上西郷川での実践は、規模こそ小さいかもしれませんが、人と地域と自然が再びつながるための確かな手がかりを含んでいます。

最後になりましたが、これまで現場でともに悩み、汗を流し、学び合ってくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、これからも「いい川・い

い流域・いい社会」を目指し、楽しさと科学、地域への敬意を大切にしながら、実践を続けてまいります。



安全に楽しく川で遊ぼう!!!



川は人々の生活や心に安らぎを与える「憩いの場」であり、貴重な自然体験ができる「学びの場」でもあります。その一方で、急激な増水など様々な危険が潜んでいます。このような川を安全に利用していただくために、福岡県では、平成21年度より毎年、小中学生を対象とした「ふくおか水辺の安全講座」を開催しています。

※令和7年度は、県内6ヶ所で開催しました。

※今年度の開催状況につきましては、福岡県県土整備部河川整備課のHPをご覧ください。

開催講座の紹介

屋内では、ビデオ映像を用いて水辺の危険箇所などを学習します。屋外では、実際に川の中に入り生物調査やカヌー乗船をおこない、川と触れ合うことで川の大切さを学びます。また、ライフジャケットの着用やレスキューロープ投げなどを体験し、増水時に救助が必要になった時の対処方法を学びます。



ロープを使った救助訓練



ライフジャケットを着用し
生物調査を実施

令和8年度 福岡県災害復旧実務講習会(第1回)の報告

日時 令和8年4月24日(金) 10:00~16:40

場所 公益財団法人 福岡県中小企業振興センター

令和8年度福岡県災害復旧実務講習会(第1回)(主催:福岡県河川協会)を開催し、県土整備事務所・支所及び県内市町村から約90名の方に参加していただきました。

本講習会は、適正かつ迅速な災害復旧事業を推進するため、災害復旧の実務担当者を対象に年2回開催しているものです。

第1回となる今回は、冒頭で「令和7年災害査定総括」として、令和7年災害の被害状況や災害査定結果を報告し、災害査定における課題について説明しました。

また、「災害復旧事業の基本原則」や「災害復旧事業の実務」、「災害報告・目論見書の作成」に関する講義では、公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法(通称「負担法」)や、申請手続きに加え、求められるスピード感やタイトなスケジュールへの理解を深めていただきました。

講師には、財務省福岡財務支局の平井上席主計実地監査官

をお招きし、査定立会とはなにかを説明いただき、災害査定時に申請者として気を付けるべきポイントや心構え、立会官の視点から見た災害査定についてお話いただきました。また、国土交通省九州地方整備局の上村課長補佐からは、九州における災害査定業務の状況や、査定事例から復旧工法やポイント、さらにはDX査定の取り組みについてもご紹介いただき、大変有意義な講習会となりました。

本講習には、災害復旧事業の初任者から経験者まで幅広い方々に参加いただきました。災害は突発的に発生するものであり、いつどこで発生してもおかしくありません。そのため、日頃から災害に対する備えをしておくことがより一層重要となります。12月に予定している次回の講習会も、参加者のスキルアップに繋がるように企画してまいりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。



講習会の様子



国土交通省 九州地方整備局
災害対策マネジメント室 課長補佐 上村様



財務省 福岡財務支局
理財部 主計課 上席主計実地監査官 平井様

7月は河川 愛護月間です

河川愛護月間推進標語

せせらぎに ぼくも魚も すきとおる



福岡県では、毎年7月1日から7月31日までを河川愛護月間と定め、各種事業を実施しています。

1 街頭広報キャンペーン

県内の、福岡・北九州・飯塚の3つの地域において、街頭でチラシ等を配り、河川愛護意識の啓発活動を行います。



2 懸垂幕・看板の掲示

県庁や県土整備事務所で懸垂幕や看板を掲示し、住民の方に河川愛護を呼びかけます。



福岡県庁行政棟にて懸垂幕の掲示

3 河川功労者の表彰

河川の機能保全、河川愛護等に特に力を尽くし、その功績が顕著な個人並びに団体を表彰します。



4 河川愛護絵画コンクール

河川愛護意識の高揚を図るため、小学校児童による絵画コンクールを実施し、優秀作品を表彰します。



入賞作品の展覧会、**参加賞あり!**
表彰式を行います。



河川功労者表彰の受賞者は
毎年福岡県河川協会総会で
表彰式を行っています!

河川愛護事業
イメージキャラクター
よみガエルくん

＼ 地域のかわをもっと元気に!! /

河川愛護活動に参加しましょう

河川愛護活動とは？

活動区間を決めて支援制度に登録していただき、福岡県から支援を受けながら、お住まいの地域の川の除草・清掃などの活動を行うものです。

※活動中の河川愛護団体・企業が実施している区間には重複登録が出来ませんのでご注意ください。

福岡県では、河川愛護活動を支援するため以下の制度を実施しています。

名称	河川愛護団体	河川愛護企業 (アダプト企業)	河川愛護支援企業 (アシスト企業)
認定要件	①県管理河川で活動 ②会員数が25名以上 ③年2回以上の活動 ④左右岸合計で活動区間が250m以上 ⑤除草・清掃活動を実施	①企業等であること ※企業には一般の企業に加え、農協や漁協などの組合、その他団体を含む ②県管理河川で活動 ③年2回程度以上の活動 ④除草・清掃活動を実施	①河川愛護団体・企業が活動している県管理河川を支援対象とすること ※複数河川可 ②整地・伐木・抜根等の活動を実施
支援内容	①報償費の支給 (1団体につき年間7万円) ②傷害・賠償責任保険の加入 ③アダプトサインの設置 ④自走式草刈機の貸し出し	①需用品の支給 (予算の範囲内で、軍手や鎌等、活動に必要なものを支給します。) ②傷害・賠償責任保険の加入 ③アダプトサインの設置 ④自走式草刈機の貸し出し	①傷害・賠償責任保険の加入
登録状況	平成27年度 428団体 ↓ 令和7年度 532団体	平成27年度 81団体 ↓ 令和7年度 119団体	平成27年度 57団体 ↓ 令和7年度 66団体

アダプト企業・アシスト企業は競争入札参加資格における地域貢献活動評価の対象になります。

詳細は下記のURLを参照ください。

(※アダプト企業については、活動区間(除草)が250m以上の企業が対象となります。)

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kasenaigoo.html>

河川愛護の詳細・登録については で



<https://sogo-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/kasenaigo/>
河川愛護団体・企業の活動区間や活動内容については

で (令和7年12月開設!)



お問い合わせは、お近くの県土整備事務所へ!

ふくおかの身近な川と いきものを知ろう!

かの
鹿野
ゆう いち
雄一

釣って楽しい、食べて美味しい、福岡のテナガエビ類3種



テナガエビ(オス)

テナガエビ類 — 文字通り手が非常に長いエビです。ただし手が長い成熟オスだけでメスや未成熟個体はあまり長くはありません。福岡県では1種だけではなく、テナガエビ、ミナミテナガエビ、ヒラテナガエビの3種が生息場を棲み分けて分布します。それぞれを紹介しましょう。

テナガエビは、福岡県では、河川の汽水域から下流域にかけて流れの緩やかな場所に分布します。また、有明平野の水路網などでも見られます。本来、いわゆる「両側回遊」の生態を持ち、幼生であるゾエアは海で育ち、成長するにつれて河口域や河川下流に移動します。ただし、隔離された山奥の溜池などで稀に「陸封」されているテナガエビもいます。このような陸封された個体群は、海に降ることなくその場で生活史のサイクルを完結します。この陸封という現象は、テナガエビだけではなく、淡水魚などでもよく見られます。例えばヤマメ(サクラマス)やイワナ(アメマス)などがその典型的な例ですね。このように野生生物の、環境への柔軟な適応を「可塑性」といいます。可塑性は本来、遺伝的に固定されておらず環境や成長速度などに合わせて発現しますが、長い時間をかけて結果的に遺伝的に固定されることもあります。この場合は可塑性を失うことになります。



テナガエビ(メス)

釣りの対象となるのも、たいていは、このテナガエビです。ミナミテナガエビやヒラテナガエビは流れの速い場所にいるため、あまり釣りの対象にはなりません。また、個人的な感覚としては、食べてもっとも美味しいのも3種の中ではこのテナガエビです。とはいえ、たいした味の違いはありませんが。初夏～秋口にかけての繁殖期には、中大型河川の河口～下流域で、簡単な仕掛けで釣れます。しかし、テナガエビを釣る文化も、年々消えつつあるように感じます。福岡県は都市河川でも水質がいい場合が多い(例えば樋井川や室見川)ので、ぜひ、古風な夏の風物詩にチャレンジしてはいかがでしょうか? 釣り方オンラインにたくさん情報があります。



ミナミテナガエビ(オス)

ミナミテナガエビは、福岡県の一般河川の中下流域ではもっともよく見られるテナガエビ類と思われます。テナガエビよりも上流に分布しますが、溜池には分布しません。テナガエビのように陸封という可塑性を持たないためです。一方で、テナガエビとミナミテナガエビは非常に良く似ています。その上、下流域では同所的に分布することもあります。個人的な感覚としては、ミナミテナガエビの方が全体に頑健な見た目の印象がありますが、客観的で決定的な違いは、オスの鉗の毛の有無と、脚の爪の長さです。テナガエビのオスの鉗には毛がびっしり生えていますが、ミナミテナガエビにはほとんど生えていません。また、雌雄を問わず、ミナミテナガエビの脚の爪はテナガエビのそれに比べて明らかに短いです。これは、速い流れの中でも流されないように、しっかりと身を固定できるようにするためとも言われています。



テナガエビとミナミテナガエビの違い

ヒラテナガエビは、筆者の印象では福岡県では多くないように思われます。特定の河川の中流域でのみ確認したことがあります。ヒラテナガエビの特徴は、文字通り、オスの手が明らかに平たいのが特徴です。また、胸部には体に沿った筋模様があり、他2種のM字模様とはあきらかに異なります。流れの速い場所にいることが多く、そのため体力があるためか、捕まえても力強さを感じます。



ヒラテナガエビ(オス)

福岡県には以上の3種のテナガエビ類が分布しますが、南西諸島にはよりたくさん種類のテナガエビ類が分布します。たとえば西表島の各河川の滝の上には、ショキタテナガエビという陸封された固有のテナガエビがいます。深い色合いが趣深く、筆者の最も好きなテナガエビ類です。また、ツブテナガエビなどは赤い筋模様が体全体に走り、一見して大変美しいテナガエビ類ですね。



ショキタテナガエビ(オス、西表島)



ツブテナガエビ(石垣島)



かの ゆういち
鹿野 雄一 — YUICHI KANO —

- 一般社団法人九州オープンユニバーシティ 研究員
- 九州大学 特任准教授
- 日本湿地学会 会員

主な著書／

■溺れる魚、空飛ぶ魚、消えゆく魚：モンスーンアジア淡水魚探訪(2018)(共立出版)

河川協会からのお知らせ

河川愛護月間推進標語

せせらぎに ぼくも魚も すきとおる

福岡県では、毎年7月1日から7月31日までを河川愛護月間と定め、各種事業を実施しています。

〔公益社団法人 全国防災協会 定時総会〕

令和8年5月26日(火)に(公社)全国防災協会定時総会が開催されました。

福岡県からは、河川協会事務局1名が出席しました。

総会后、国土交通省水管理・国土保全局防災課による災害復旧事業の最近の取組に関する説明が行われました。



〔全国治水期成同盟会連合会 通常総会〕

令和8年5月29日(金)に全国治水期成同盟会連合会の通常総会が開催されました。福岡県からは、加地小郡市長、権藤うきは市長、中島朝倉市長、武末那珂川市長、中山大刀洗町長、広松大木町長、黒土福智町長が出席されました。

総会に先立ち、「加古川河川改修の取り組み」と題して、岩根正加東市長、「河川行政の現状と課題」と題して国土交通省水管理・国土保全局笠井雅広治水課長の特別講演が行われました。



〔公益社団法人 日本河川協会 定時社員総会〕

令和8年6月1日(月)に(公社)日本河川協会の定時社員総会が開催されました。定時総会には出席せず、書面により原案に賛成しました。

編集後記

最高気温40℃以上の日の名称が「酷暑日」に決まったそうです。福岡県内でも酷暑日を記録するのでしょうか。
熱中症と水難事故に気を付けて、いい夏にしましょう。
全国的に渇水傾向のようです。水は大事に使いましょう。

(植村・北川)

◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川管理課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL:092-633-2826(直通)
FAX:092-643-3669
企画 アロー印刷株式会社

福岡県河川協会ホームページ

<https://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/>

